

ウィズコロナ～ポストコロナを過ごした留学生へのアンケート調査からわかること
—入学時と卒業時を比較して—

International Students' Experiences During the With-COVID and Post-COVID Periods:
A Comparative Survey at Enrollment and Post-Graduation

Maisarah Binti Kamal (マラヤ大学)
小林安那 (高知大学)

本発表では、ポストコロナおよびDX時代の現在、渡日前の留学生に対してどのような指導が必要かを、コロナ禍の経験を振り返ることによって考察・提案する。発表者らは先行研究において、コロナ禍のなか日本の大学に入学したマレーシア人留学生を対象にアンケート調査を実施し、その結果から新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる影響を受けた新入生の実態を明らかにしたうえで、ウィズコロナを想定した予備教育の在り方について検討した。本発表では、パンデミックから数年が経過し社会変革が進められてきた現状を踏まえ、ウィズコロナ時代からポストコロナ時代にかけて日本で留学生生活を過ごした経験にどのような特徴が見られるのかを調査・分析した。アンケート調査の結果から、学修を遂行するうえで人間関係が大きな影響を及ぼすことが確認された。また、大学の課題やICT利用への意識についても明らかになった。これらの結果をもとに、コロナ禍以降、教育においてもDXが進められる現在の環境下において、予備教育ではどのような指導が必要であるかを再検討する。

(451字)